

一般社団法人関西地質調査業協会 創立60周年記念事業

防災市民フォーラム滋賀2017 滋賀の地盤災害と防災を考えるー豪雨と地震ー

事業報告

○開催概要

日時：平成29年5月20日（土）13:00～17:00

会場：滋賀県危機管理センター1階大会議室

主催：一般社団法人関西地質調査業協会滋賀支部

後援組織：8団体

官公庁 国土交通省近畿地方整備局

滋賀県

大津市

研究機関 立命館大学防災フロンティア研究センター

滋賀地域地盤研究会

防災機関 日本防災士会滋賀県支部

報道機関 びわ湖放送株式会社

株式会社エフエム滋賀

参加者：111名

一般社団法人関西地質調査業協会
創立60周年記念事業

防災市民フォーラム滋賀2017

参加費無料

滋賀の地盤災害と防災を考えるー豪雨と地震ー

日時 平成29年5月20日（土）13:00～17:00
(12:30開場)

会場 滋賀県危機管理センター1階大会議室
(滋賀県庁東隣)

写真提供：滋賀県防災行政課

近年、地震・台風・豪雨等による土砂災害や水害が多発しており、突然訪れたら周辺で災害が起こるかもしれない状況にあります。創立60周年の節目にあたり、今住んでいる地域の地形地質を理解して、自らが備えることのできる防災について、市民の皆様と共に考えたいと思います。

プログラム

13:00～ 開会オープニング
13:10～ 開会挨拶
一般社団法人関西地質調査業協会滋賀支部 支部長 山本善浩
滋賀県総合政策部防災危機管理課

13:30～ 基調講演 「滋賀の地盤災害と防災を考えるー豪雨と地震ー」
深川 良一 氏 立命館大学理工学部都市システム工学科教授

14:30～ 休憩 ～コーヒータイト～

14:45～ 意見交換（防災カフェ形式）

16:25～ 防災事業PR

16:55～ 閉会挨拶 一般社団法人関西地質調査業協会滋賀支部 副支部長 木村 浩

17:00 閉会

主催 一般社団法人関西地質調査業協会滋賀支部
後援 国土交通省近畿地方整備局、滋賀県、大津市、立命館大学防災フロンティア研究センター、滋賀地域地盤研究会、日本防災士会滋賀県支部

プログラム

13:00～13:20 開会オープニング ～災害に関する映像～

13:20～13:30 開会挨拶

13:30～14:30 基調講演 立命館大学理工学部都市システム工学科 深川良一教授

「滋賀の地盤災害と防災を考えるー豪雨と地震ー」

14:30～14:45 休憩 ～コーヒータイト～

意見交換でのパネリストへの質問を記入・投函

14:45～16:20 意見交換（防災カフェ形式）

・パネリストによる話題提供 ・質問の回答 ・防災計画のアドバイス

16:20～16:50 防災事業PR

- ・ 滋賀県防災危機管理局
- ・ 大津市危機・防災対策課
- ・ 日本防災士会滋賀県支部
- ・ 一般社団法人関西地質調査業協会

16:50～16:55 閉会挨拶

16:55～17:00 記念撮影 「私の防災計画」

17:00 閉会

○開会オープニング 災害に関する映像

防災市民フォーラムのオープニングに当たり、過去の土砂災害、地震災害の映像を上映した。

- ・平成25年9月に発生した18号台風の被害映像 提供 滋賀県流域治水政策室
- ・同18号台風に関するニュース映像 提供 びわ湖放送(株)
- ・平成23年3月に発生した東日本大震災の東北の被災状況 提供 日本防災士会滋賀県支部



○開会挨拶

▲一般社団法人関西地質調査業協会滋賀支部 支部長 山本善浩

当協会創立60周年記念事業に際して、滋賀県で将来起こるべく土砂災害・地震災害に対して地質調査・地盤災害の専門家として、今後もより一層防災・減災に貢献するとともに、各機関との連携を深めて、市民一人ひとりの防災意識の向上に努めていきたいと考えている。



▲滋賀県総合政策部防災危機管理局 地震・危機管理室長 田原利秋 氏

県は貴協会との間に平成26年3月、自然災害時の緊急災害対策業務に関して災害協定を結んでおり、災害発生時に県所管施設の緊急的な災害応急対策調査を実施し、被害の拡大防止と早期復旧を目指す。今後、益々貴協会との連携を深めて行くとともに、大きな期待を寄せている。



○基調講演

▲立命館大学理工学部都市システム工学科 教授

立命館大学防災フロンティア研究センター・センター長 深川良一先生

「滋賀の地盤災害と防災を考える」-豪雨と地震-というテーマで約1時間、近年の降雨量・集中豪雨と土砂災害の関係、豪雨時の斜面災害、特に平成25年9月の18号台風による安養寺山斜面崩壊及び昭和28年8月の信楽町多羅尾豪雨災害について詳しく説明をいただき、今後の台風・豪雨災害を考える上での指針となった。一方、地震時の斜面災害や液状化災害について東日本大震災及び熊本地震の事例で説明をいただき、今後起こる可能性が高い琵琶湖西岸断層帯地震や南海トラフ地震にどう対応すべきかを示していただいた。さらに、東日本大震災時に発生した道路上での液状化現象を捉えたリアルな映像には、大変驚くものがあった。



○意見交換

意見交換は5人のパネリストの方に登壇いただき、それぞれの立場から防災・減災への取り組み状況の説明があった後、事前に投函された参加者からの質問に対する回答やアドバイスをもらった。

【パネリスト】

▲立命館大学理工学部都市システム工学科 教授

深川良一先生

▲滋賀県土木交通部監理課課長補佐

辻 光浩 氏

▲大津市役所総務部危機管理監

秋田守弘 氏

▲日本防災士会滋賀県支部防災士

大坪賢一 氏

▲（一社）関西地質調査業協会 創立60周年記念事業実行委員長

荒木繁幸 氏

△進行役 （一社）関西地質調査業協会 滋賀支部技術委員長

岩瀬 信行



意見交換での質問は、一般家庭で防災対策はどうしたらよいか、住んでいるところは液状化が起こるか、液状化対策はどうしたらよいか、どれくらいの費用がかかるか、滋賀県で地震の起こる活断層はあるか、琵琶湖で津波が起こるか、など非常に多岐にわたったが、それぞれの立場でわかり易く、丁寧に回答していただいた。最後に5人のパネリストから「私の防災計画」と題して参加者が決意表明するためのヒントをいただき、深川先生の意見交換総括で締めくくった。



○防災事業PR

防災事業PRは各組織における現在の防災・減災に対する取り組み状況や今後の展開について説明をいただいた。

▲滋賀県総合政策部防災危機管理局

地震危機管理室地震・防災係 副参事 木村 敦 氏

今回の防災市民フォーラムの会場となった滋賀県危機管理センターは、24時間365日災害に対応できるよう備えており、平常時は1階のエントランスロビーは一般に開放している。

また、当センターは地震・風水害などの災害時には災害対策本部が設置され、自衛隊・消防・DMAT・ボランティアセンターなど防災関係機関が集結して滋賀県の危機管理の拠点となる。



▲大津市総務部危機・防災対策課

総合防災係長 里田幸朗 氏 主事 門坂勇氣 氏

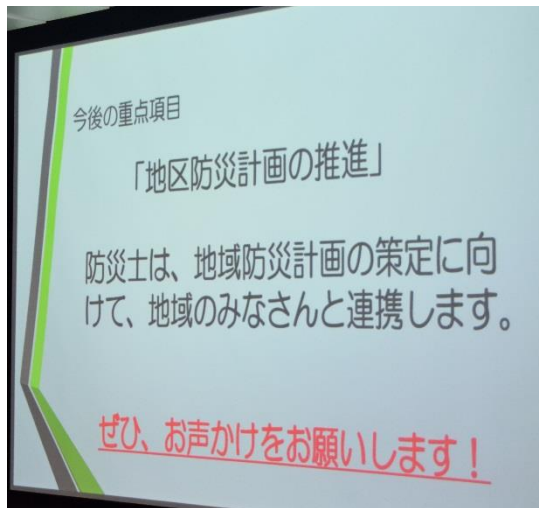
大津市の防災ナビは、防災・減災に特化したアプリで中核都市および県内初の取り組みである。現在地周辺の避難場所やAED設置場所の自動検索、ハザードマップ表示、安否確認ができ、市外避難所データとも連携している。



▲日本防災士会滋賀県支部

防災士 大坪賢一 氏

防災士は自助、共助、協働を原則として社会の様々な場で防災力を高める活動をしており、防災に関する講演や研修、地域の防災訓練への協力を行っている。また、防災士の人数はまだ不足している状態なので、現在、防災士の増員を目指しているところである。今後の重点項目としては「地区防災計画の推進」が挙げられ、地域防災計画の策定に際して地域の皆さんと連携して行くことが重要となる。



▲一般社団法人関西地質調査業協会

防災委員長・技術委員長 東原 純 氏

当協会は地震災害や豪雨災害の被害を減少させ、市民の安全を確保するために、地質調査と言うツールを用いて貢献している。一方、平成26年3月に滋賀県と防災協定を締結し、災害発生時に、緊急対応できる体制を構築して、平時から災害に備えている。また、各機関が主催する防災訓練や防災イベントに参加し、災害時における対応力を向上させるとともに、市民の皆様には防災の重要性を訴えている。さらに防災・減災の基礎資料となる県内のボーリングデータを収集し、近江盆地の表層地質について研究し、その研究成果は多方面で活用いただいている。



○閉会挨拶

▲一般社団法人関西地質調査業協会滋賀支部 副支部長 木村 浩

本フォーラムにご参加ご協力いただいた方々に感謝の気持ちを伝えるとともに、当協会滋賀県支部は防災市民フォーラムの開催を期に、滋賀県の地盤に精通した専門技術者として、防災・減災の一助となれるよう、日々技術の研鑽に励み、また、今回のような地盤災害に対する情報発信の場に積極的に参画していきたいと考えている。



○記念撮影 「私の防災計画」

参加者全員がパネリストの周りに集合して各自がフォーラム冊子の裏面に記載した「私の防災計画」を提示して、和やかな雰囲気での記念撮影を行った。



最後に、総合司会の北川利孝より全てのプログラムが終了したことが告げられ、一般社団法人関西地質調査業協会創立60周年記念事業 防災市民フォーラム滋賀2017を閉会した。

<京都新聞掲載記事>

2017年5月21日(日)

自然災害 備える力高めよう

大津でフォーラム 地震や豪雨対策 専門家紹介



地震や豪雨などへの防災について考えた市民フォーラム
(大津市京町4丁目・滋賀県危機管理センター)

地震や豪雨など自然災害に備える力を高める「防災市民フォーラム滋賀」が20日、大津市京町4丁目の滋賀県危機管理センターで開催された。

地質調査の企業などでつくる関西地質調査業協会の滋賀支部(甲賀市)が、協会創立60周年に合わせて開催。

市民ら約100人が参加する中、東日本大震災や2013年の台風18号で起きた県内の被害の映像を見た後、立命館大理工学部の深川良一教授が講演した。

豪雨時に起こる土砂災害のメカニズムや、琵琶湖西岸断層など県内の活断層を紹介した。

その後、深川教授ら

専門家5人が、会場から「地震の安全はどうかかめるのか」「液状化対策は」などの質問に回答。ハザードマップを活用して自宅近くの災害リスクを把握する必要を訴えた。

また「過去には琵琶湖で津波が起きたこともある」と伝えた。

(中塩路良平)

当日は、深川良一立命館大理工学部長、辻光浩県土木交通部監理課課長補佐、秋田守弘大津市総務部危機管理監、大坪賢一日本防災士会滋賀支部防災士、荒木繁幸関西地質調査業協会創立60周年記念事業実行委員長の5名をパネリストに迎え、基調講演や意見交換等を行った。

深川氏が行った基調講演では、▽豪雨時の斜面

<滋賀産業新聞掲載記事>

2017年6月2日(金)

防災市民フォーラム2017

関西地質調査業協会が主催

一般社団法人 関西地質調査業協会 滋賀支部

(山本善浩支部長・双葉建設) は去る20日、大津市の県危機管理センターで「防災市民フォーラム2017・滋賀の地盤災害と防災を考える」を開催、

当日は、深川良一立命館大理工学部長、辻光浩県土木交通部監理課課長補佐、秋田守弘大津市総務部危機管理監、大坪賢一日本防災士会滋賀支部防災士、荒木繁幸関西地質調査業協会創立60周年記念事業実行委員長の5名をパネリストに迎え、基調講演や意見交換等を行った。

深川氏が行った基調講演では、▽豪雨時の斜面災害▽地震時の液状化災害について、過去の県内の被害状況を引合いに災害を考える上での教訓などを伝え、いつ起こるか分からない災害に備えることの重要性を説明した。

また、各パネリストが所属する県・市・団体の防災事業を紹介。参加者らに防災事業を身近に感じてもらえるよう、各サービスの説明を行った。

なお、同フォーラムの後援は、国土交通省近畿地方整備局・滋賀県・大津市など。

<びわこ放送>

5月20日(土) 夕方6時前と夜10時前のニュースで市民フォーラム開催の報道があった。

意見交換・質問カード一覧

内 容		キーワード
1	活断層について「北部は確立高い、南部は0、連動するかもしれない。」住民は混乱するのでは？	①活断層
2	民間住宅の耐震化はどのようになっているのでしょうか。促進のための補助の現状は。	⑤減災
3	降雨や地震起源による斜面崩壊が発生し、救助に近寄る場合、同じ場所で二度災害が発生することへの警戒は必要なのか。	②土砂災害
4	湖南省菩提寺のサービスエリア近くの住宅地S40年代からの住宅開発地域（風化花崗岩のマサ土）県も確認している危険な場所、少しでも安全になるような方法（技術的なもの）はないのか。	②土砂災害
5	地域により山と川に挟まれている所に住んでいる場合、避難場所が川近くの「まちづくりセンター」であるため何を先に防げばいいのか教えてほしい。	⑥避難
6	平野の低平地に住居があり、浸水被害や液状化被害が発生している現状で避難しか対策方法はないのか何から手を付けたらよいのかわからないので教えてほしい。	⑤防災
7	自宅に簡単な雨量計設置するのにどこで買えるか、単価はどれくらいか教えてほしい。	⑥避難
8	「0字谷」についてどのようなプロセスで発生するのでしょうか。自然的か人為的か。自然的であればできないようにしたいので造成計画などを行う場合の留意点などをアドバイスいただきたい。	①地形
9	防災に関心のある者は今回のフォーラムに参加したり、自治体主催の防災訓練などに参加しますが、防災に何ら関心を示さない層に災害の備えをいかに教示していくべきと考えますか。	⑦地域活動
10	女性の私が家庭でできる防災対策は何か。	⑤防災
11	琵琶湖周辺（陸及び湖）のクスモ層の成り立ちを教えてください。また、クスモ層は、琵琶湖周辺（陸及び湖）のどの範囲にどの位の面積があるのですか。	①地形
12	大災害が発生した際、国道、県道、高速道路等の橋はどの程度耐えられる構造となっているのでしょうか。	⑤防災
13	琵琶湖で大地震が発生した場合、琵琶湖で津波は起こるのでしょうか。	④地震災害
14	斜面の安定計算で地震時の検討がなされないことがある。土塊の重量が大きすぎて水平震度を掛けると安全率が1.00以下となる。設計では地震時の検討を求められないことが多いがこれで良いのか。	④地震災害
15	地域活動における自助や共助の活動は滋賀県内でどのように進められているのか。	⑦地域活動
16	災害時には地域における共助のしくみが不可欠であると考えます。しかしながら地域からは市町村や消防などの公的機関による公助を求める声も聞かれるところです。防災のためには日頃からの備えも必要と考えますが、地域と行政（市町村）との関わり方についてご教示ください。	⑦地域活動
17	行政の防災士活用の方法と手段について	⑦地域活動

意見交換・質問カード一覧

内 容		キーワード
18	滋賀県では液状化になる可能性が多いと聞きましたが、どのような事前対策をすれば良いのでしょうか。	⑤防災
19	新築時の液状化対策とはどのようにするのでしょうか。	⑤防災
20	大津市におの浜に住んでいます。液状化に対する対策としてどんな準備・備えが要りますか。	⑤防災
21	液状化しにくく、かつ強度のある土質区分はどれにあたりますか。 (家を建てる場合、どういう地盤が良いのですか)	⑤防災
22	一般住民に対して、液状化の備えをどのように説明したらいいか。	⑤防災
23	滋賀県でもなるべく新築時に液状化対策をとのお話がありましたが、この対策はどこまで進んでいますか。公共、個人住宅での現状は。	⑤防災
24	滋賀県の地盤は全国や関西に比べて特徴と言えるものはありますか。また、その特徴に対して風水害へ対策すべきことはありますか。	①地形
25	斜面災害にあわないために地形や地質で気をつける条件はどのようなものですか。	①地形
26	近いうちに滋賀で大きな地震が起きると聞いたのですが、本当に起きるのか。	①地形
27	滋賀県において地震が発生しそうな活断層はありますが(琵琶湖西岸断層以外で)。その予測はどうなっているのでしょうか。	①地形
28	極端気象はどうやって想定していますか。平時と災害時の情報発信で気をつけていることは何ですか。どのような情報が利用されると考えていますか。	③豪雨
29	大津市防災ナビを県下一円に拡大実施できないか。	⑤防災
30	地山の安全を確かめる方法がありますか。	②土砂災害
31	自分の住んでいる裏山の危険度を具体的に評価するためにはどのようにしたらいいのか。	②土砂災害

質問カード キーワード分類

①	滋賀県の地形地質活断層
②	土砂災害
③	豪雨・水害
④	地震災害
⑤	防災・減災
⑥	避難
⑦	地域活動
⑧	その他

質問カード仕分け

